



私達ならきつと

大田区立六郷中学校 三年 内藤 小綯

税金という言葉を聞いたとき、私が思い浮かべたのは、私達が生まれたときからずっと身近にある消費税のことです。小学生高学年になり、自分で買い物をするようになった頃、消費税とはなんだろう、と疑問に思うことはありましたが、詳しく調べたことはありませんでした。しかし、税金の作文を書くにあたって、ぼんやりとしていた消費税のことについて改めて詳しく調べ、税金についてよく知ろうと思ひ、私は二つのことを調べました。

一つ目は、消費税の仕組みについてです。消費税とは、商品の販売やサービスの提供に対してかかる、広く公平な間接税のことです。売店ではほとんどの場合、消費税がかかります。

二つ目に、現在に至るまでの消費税の税率を調べました。日本は一九八九年に初めて消費税を導入しました。そして、その当時の税率は三パーセントでした。その後一九九七年に五パーセント、二〇一四年に八パーセント、二〇一九年に十パーセントと、税率が引き上げられてきました。その理由は、消費税が使われている年金、医療費、介護、少子化対策などの社会保障制度に深く関係のある少子高齢化です。今の日本は平

均寿命が、伸びる一方で、子供の出生率が低くなっていることが大きな問題となっています。

私は今回、消費税について調べ、日本の消費税には良い面、悪い面があることを知りました。これを知る前の私は、何のために消費税を払うのだろう、払っている意味はあるのか、など考えていましたが、消費税の仕組みや行き先を知り、自分の払っている消費税が日本の社会保障制度の役に立っている、私達の祖父や祖母にあたる年代の方々の支えになっている、と思うと消費税に対する不信感がなくなりました。また、日本の現状を知り、今の世代の私達には何が出来るのか、何をすべきなのかを考えることが出来ました。そして、社会保障制度などは、現在や将来の私達や未来の子供達の幸福を保障するものだと思います。それは正に日本で目標として、かかげられている、持続可能な社会とも言えると思います。

今の日本では経済成長の停滞、財政赤字、公債の債務残高などの問題、さらに近代では、新型コロナ感染対策、急増する自然災害など、多くの課題があると思います。しかし、日本は戦争など激動の時代も乗り越えてきました。現在の私達も国民が、力を合わせれば、今の日本をまた新しいものに出来ると思います。そのために、日本の現状を若者がきちんと知るべきだと思います。したがってこれからこの世の中がもっと良い世界になるように、また、持続可能な社会にするために、私も祖国について、もっともっと知っていききたいと思います。